

## 1, 本部事務局

①社会福祉法改正への対応、使命及び理念の具現化、事業計画進捗状況、ストレスチェック実施、働きやすい職場作りについて説明

② 苦情及び要望等なし

苦情要望等はなし。

## 2, 別府厚生館～15世帯45名

①重点的取組～使命理念を共有し母と子の人格や個性を尊重した支援、暫定定員解消への取組

② 苦情～ ウォータークーラーの修理、サッカーボールがほしい

・隣室の騒音、共用風呂の鍵の取り替え

③ ヒヤリハット（3件）

・児童のけんか、公用車接触事故

④ 館内保育体制の充実

・プレイルーム開設

## うえの園・清明あけぼの学園

うえの園 20名（定員20名）生活介護 定員20名、日中一時支援・短期入所定員2名、相談支援事業所

清明あけぼの学園 19名（定員10名）、日中一時支援、短期入所 定員2名

①重点的取組～大規模改修工事、利用者の高齢化に伴う終末期支援検討

②苦情・要望

・子ども同士のトラブルの取扱

③ヒヤリハット

・転倒、他害行為、怪我 ・器具破損

・不意の行動（単独で玄関から出る、消毒液を頭につける、ペーパータオルを噛む）

・服薬ミス（時間、個数、種類の違い）

・書類送付先ミス

対応～リスク共用ノート、マニュアル見直し、投薬手順の再確認と職員複数体制による投薬（以後ミス無し）

森の木～本体施設 37名 地域小規模 10名 被虐待児童入所率（70.3%）発達障害（33.3%）

子育て支援事業（ショートステイ 38名 82日）ゆずりは 相談 145件、心理療法 15件

①重点的取組～使命及び理念の具現化 7項目の重点目標を設定し全職員に徹底し支援

② 苦情等

・聴き耳頭巾相談～児童の暴言、脱出したい

・保護者から～他の子よりアクセサリーを壊された、学校でいじめられている

・地域から～森の木の子どもからたたかれた、ペンシルの芯をとられた

③ ヒヤリハット～

・郵便物の確実な受け渡しのために、事務室で受け取る

・公用車バンパー傷

・ハラスメント委員会～投書箱の設置（投書0件）

滝尾保育園～171名（定員140名）当局より待機児童対応のために、保育室面積に応じた人数の受入を依頼

①重点的取組～待機児童解消に向けた改築開始、子育て相談こそだて広場開設、保育士確保と人材育成

②苦情等

- ・解体時の騒音

### ③ヒヤリハット

- ・母親を追いかけて駐車場へ、公園で遊んだ後、集合時に二人の園児が先に出る、
- ・ロッカーより落下物、廊下で滑って転ぶ、ドアで手を挟む
- ・食物アレルギー～除去食対応時に普通食を運ぶ、対応児が普通食のテーブルに着席  
除去食でない食品で赤い発疹

### ④事故報告

- ・左手脱臼、嘔みつき

### ⑤感染症各種、シラミ発生

## 明野しいのみ保育園～138名（定員138名）

### ①重点的取組～理念方針の具現化への取組、目標管理による人材育成

### ②要望及び苦情

- ・クラス担任の決定について、クラスになじめない子、発熱時の迎えについて・・・話し合いで解決

### ③ヒヤリハット

付箋を利用し、リスク委員会で検討し、情報を共有

### ④事故等報告

- ・右肘内症、雲梯から着地時に打撲・骨折・・・マットの取り替え
- ・無呼吸発作、低血糖発作（朝食抜き）
- ・食物アレルギー～除去解除後に湿疹、チーズ・ヨーグルトによる発赤

### ⑤感染症等各種

手洗い・うがいを丁寧に行うように支援を徹底（毎月1日「手洗いの日」設定）

## 協議

### ○利用者家族から

- ・担任の件については園長の話で皆さん納得している。毎月クラス便りで保育目標は記載しているが、子どもの目標があると親子でそれに関わる取組ができる。
- ・子育て広場に参加している皆さんも運動会に楽しく参加できていた。
- ・工事の関係かいつもよりヒヤリハットが多い感じがするが、迅速にそして細やかな対応ができています。
- ・終末期の支援については、家庭での生活は無理なので、30年の法改正に向けて取り組んでほしい。

### ○第3者委員から

- ・投書箱にいた内容について児童は忘れており、今は楽しいと話している。
- ・試し行動をする子どもに同調する子もいる中での支援は大変だが、よくやっている。
- ・地域と共存することが大切で、地域行事等にもよく参加している。
- ・理念、重点目標を位置づけているのはすばらしい。それにより職員一人一人が自分は何に向けて行けばいいかが明確になる。さらにその取組を検証することが大切である。
- ・食物アレルギーはリスクとしても大きい。業務軽減のために使えるソフト等考えるのも必要ではないか。

最後に「前向きな提案をいただき感謝している。職員一人一人が目標を設定するし、その取組を発表する場を設けるなどして検証していきたい。食物アレルギー対策にしても、一方では食べることの楽しさ、豊かな味覚といった視点も大切にしながら今後取り組んで参りたい。また、改めて地域の中で活かされる施設の大切さを感じた。今後とも地域の中の施設としてあり方を模索していきたい。」との有松会長の言葉でサービス運営委員会を終了した。